

りつめい

題字・末川 博名誉総長

R Alumni

立命館大学校友会

立命館大学校友会報

NO.
239

2010
JANUARY

Brilliance

輝くひと

71

お父さんの家庭料理から生まれる
新しいライフスタイルを提案
ハバ料理研究家
滝村 雅晴 さん（93産社）

巻頭企画

連携から成長する立命館



03 巻頭企画

連携から 成長する立命館



01 輝くひと

滝村雅晴 さん

08 Ritsumei Interview

「まちに必要なことは全部やっただけ!」。

市民とともに、
市民が願うまちをつくります。

奈良市長

仲川げん さん



12 都道府県校友会長を訪ねて

千葉県校友会会長 山本良夫 さん

島根県校友会会長 坂根 勝 さん

14 ホームカミングデー開催のお知らせ

16 オール立命館校友大会2009



18 校友会ネットワーク

校友会HP内に「校友求人受付ページ」を開設しました!

20 立命館明日へのことば

学生が輝く学園づくり

—希望と感動を与え、夢の実現を応援する—

國廣敏文 学生担当常務理事

22 立命館のゼミナール訪問

産業社会学部 有賀郁敏 教授

経営学部 小久保みどり 教授

24 学生のスポーツ&イベント



26 キャンパストピックス

29 輝いています、ときの人

高津佐知子 さん・池本尚吾 さん



30 INFORMATION

31 編集室から

表紙の人



パパ料理研究家

滝村雅晴 さん ('93産社)

お父さんの家庭料理から生まれる 新しいライフスタイルを提案

日本で唯一の“パパ料理研究家”という異色の職業に就く。簡単に言うと「お父さんの料理を家庭に定着させる」ことがその使命で、父親と台所をつなげる活動を繰り返している。「その先につながるのは家族の幸せです」。自身をモデルに、新しい世代のライフスタイルを提案している。

2009年4月、株式会社ビストロパパを設立。お父さんが作る家庭料理（パパ料理）をテーマにセミナーやレシピ企画、メディア出演、講演などの事業を展開し、多方面で活躍している。さらに、髭で有名な「一澤信三郎帆布」（本社・京都市）とコラボレートしたエプロンも販売しており、形から入る人がこだわりを持てるような工夫も忘れない。

4年前からお父さんが作りやすいレシピなどをブログ（日記形式のWebサイト）で発信。ブログの連続更新日数は1300日を超え、現在も継続中だ。その積み重ねから「パパ料理」という分野を確立し、起業に踏み切った。社名は料理バラエティ番組「ビストロマップ」と、料理漫画「クッキングパパ」にちなんでいる。京都府出身で、立命館中学・高校、そして立命館大学で学んだ。卒業後は企業で広報・宣伝、ブランド構築に関する業務などに従事し、ここで培ったノウハウが現在の事業の礎になっている。

本格的に料理を始めたきっかけは長女の誕生にある。出産直後の妻への気遣いから、生まれて初めて料理本を購入した。レシピ通りに作ったデビュー作は「予想以上に美味しく、びっくりした」。以降、料理にのめり込んでいく。しかし、あくまでも趣味の域。偏ったメニュー、大雑把な材料や調味料の使用などが続き、次第に妻の不満や家計圧迫などのマイナス面が浮き彫りになった。そんな中、家族が望むのは「お父さんが作る家庭料理」と気づき、同時に父親としての家庭との関わり方も見直した。現在、家でも仕事をしており、家族という時間を大切にしている。

インターネット社会の現代を“一億総研究家の時代”と壮大に見据える。「多くの人に起業のチャンスが広がっています。好きな場所で仕事をしながら家族とのふれあいを大切にする、そんなスタイルを広めたい」。そして、様々な分野での“パパ研究家”の登場を待望する。

パパ料理は父親と育児も結び付けるといふ。「積極的に子どもを巻き込み、毎日何か一つの作業を手伝ってもらっています。様々な食材にふれるので食育にもつながっていますよ」と胸を張る。国内では夏に政権が交代し、新たな「子育て支援」に注目が集まっている。そんな中、新しい“パパの子育て”にも着目してみたい。

ビストロパパのホームページは <http://www.bistropapa.jp/>

(写真・小幡 豊 文・山口起儀)

連携から

特色ある大学づくりをめざして

成長する

近年、各大学であらゆるかたちの「連携」が進んでいます。その取り組みは、特色ある大学づくりや質の向上につながる効果をもたらしています。立命館大学でも様々な連携が進み、学生、教職員が活発に活動しています。連携から成長する立命館の現状を紹介します。

立命館



Ritsumeikan University
that grows up
from cooperation



大学間
連携

大学間連携から「学生中心の教育」の高度化を追求

近年、各大学が積極的に「大学間連携」を進めている。立命館大学も現在6大学と連携し、相互に発展をめざす多彩な取り組みを展開している。

大学間連携が進む背景には、文部科学省が2008年度に予算化した、大学間の積極的な連携を推進する施策「戦略的大学間連携支援事業」などが大きく影響している。各大学で、教員集団が主体となって授業改善に取り組むFD（ファカルティ・デベロップメント）が活発化し、それに伴って大学教育の質保証や魅力ある教育の実現、国際競争力の強化・育成などに向けて連携を強めている。

立命館大学が連携している6大学のうち08年度からの山形大学では「学生中心」とする共通の精神のもと学長、学生、職員の相互交流を軸に取り組みがスタートした。04年度に文科省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択されるなど、早い段階からFDに活発で質の高い人材育成を展開している山形大学の活動は、立命館大学にとって大きな刺激になっている。

これまで、双方の学長の講演会を実施したほか、学生がお互いのキャンパスを訪問して授業にも参加。さらに、課外で活躍する学生団体同士で意見交換するなど、正課、課外の両方による交流を繰り返している。また、互いの大学の共通課題について、職員同士が話し合うなどの連携も進んでいる。



山形大学との交流の様子

産官学
連携

産官学連携で起業家を育成するBKCインキュベータ

びわこ・くさつキャンパス（BKC）には、立命館大学が産業界や行政と連携しながら起業家を育成する賃貸施設「立命館大学BKCインキュベータ」（以下、BKCI）がある。ここから産官学連携による新たな技術や製品が生み出され、学生の起業家精神の育成にもつながっている。

立命館大学は全国でいち早く、本格的な産官学連携活動に着手し、2005年には経済産業省が実施した調査において、産業界からの産官学連携の評価で総合1位に選ばれた。BKCIは、この連携の核となる施設で、中小企業基盤整備機構が滋賀県、および草津市から要請を受け、キャンパス内に建設、運営。全国に約220あるインキュベータの中で数少ない“オンキャンパス”型の施設だ。このインキュベータを利用し、全国に先駆けて学生インターンシップを導入していることもその特徴の一つとなっている。

BKCIは起業をめざす学生やベンチャー企業、そして新規事業に取り組む中小企業などに居室を間貸しし、新事業の創出・育成や地域産業の技術の高度化をめざして、共同研究のフォローや企業PRの場の創成などの支援で後押ししている。入居期間は最長5年で、計30室を用意。設立当初は製造業の入居が目立ったが、近年はIT系や環境バイオ関連の会社が増えている。設立から5年経過した現在、立命館の大学発ベンチャー数は計35社（全国私大3位）で、このうち2社が上場するなど、BKCIは大きな役割を担っている。この施設の利用により、企業はリアル

タイムに大学の知的資産や人的資産を活用でき、地方自治体は地域産業活性のチャンスを得ている。そして、大学には研究成果の産業界での活用や、学生の起業家精神の育成などの成果がもたらされるなど、“三方よし”の効果が生まれている。

BKCIでは、入居希望者を随時受け付けている。担当者は「近い将来、新たな事業へチャレンジする計画をお持ちの校友にはぜひ、支援環境が整ったBKCIへの入居を検討していただきたいと思います。母校との連携を軸とした起業活動は、大学の知的財産や人的財産の活用といった利点だけでなく、母校を通じた社会貢献、地域貢献など、様々な面で起業家に新鮮な活力を与えてくれるはずだ」と話している。（お問合せ：077-566-8333 BKCIインキュベーション・マネージャー室まで）



入居企業のインターンシップで学ぶ学生たち

産官学地
連携松竹、京都府、太秦・大映通り商店街の人たちと
ともに作る映画「京都太秦恋物語」

立命館大学は映画会社の松竹株式会社（以下、松竹）、京都府と連携し、映画の制作に取り組んでいる。作品名は「京都太秦恋物語」。京都の商店街を舞台にしたラブストーリーだ。指揮を執るのは立命館大学客員教授で、日本を代表する映画監督の山田洋次氏で、映像学部 of 学生とともに長編劇場映画を作るという、映画史上でも稀な挑戦が始まっている。

立命館大学と松竹は07年から人材育成や映像技術の研究・開発、新事業創出などの面で連携しており、今回の映画制作はその大きな柱となるプロジェクト。映像学部の2、3年生22名が「実践型授業」として08年度から本物の映画作りに関わっており、企画や映像的視点に基づいた劇作および文章化、観察調査といった過程を学んだ後、09年度には演出、撮影、照明、美術、プロデューサーなどの制作に関わる全工程を授業で学び、現場実習として実際の制作に携わった。

太秦・大映通り商店街を舞台にした物語は、立命館大学の図書館に勤めるクリーニング店の娘と、幼なじみでお笑い芸人をめざす豆腐店の息子の恋について描かれた作品。ヒロインは女優・海老瀬はなさん、幼なじみ役はダンスボーカルユニット「EXILE」のメンバー USA（ウサ）さん、ヒロインに恋する学生役は俳優・田中壮太郎さんがそれぞれ演じるのに加え、商店街の人や立命館大学の教員らも出演。プロとアーティストに加えて、職人や学者といった「魅力的なアマチュア」が共演する個性的なキャスティングとなっている。

この映画は「作品を通じて未来の映画人の育成に全身全霊をかける」という山田監督の情熱に立命館大学、松竹、阿部勉共同監督らスタッフ、俳優、商店街の人が共鳴し、結集した。撮影は9月から2ヶ月間行われ、学生たちは「本物」を作ることではか得ることができないものを手に入れた。この産官学と地域がタッグを組んだ作品は来春以降に公開される予定だ。



山田洋次監督の指導のもと、映画制作に取り組む映像学部の学生たち



撮影現場での「実践型授業」で得るものは大きい

映画あらすじ

京都太秦・大映通り商店街。クリーニング店の娘の東出京子（海老瀬はな）は、立命館大学の図書館に勤め、京子の幼なじみで豆腐店の息子の梁瀬康太（USA）は、アルバイトをしながらお笑い芸人を目指していた。ある日、京子は図書館で「白川静文字学」を研究する榎大地（田中壮太郎）と出会った。学問一筋の大地は一目ぼれし、研究への一途な態度と同じ情熱を京子に注ぎ始める。この頃、康太は自分の将来について悩み始めていた。京子との関係もうまくいかず、二人は喧嘩してしまう。

別れる二人の様子を偶然に見ていた大地が、いきなり鴨川を渡って京子のもとへ。「明日、一緒に京都を出て留学する北京で暮らそう」と、一方的にプロポーズし、新幹線のチケットを無理やり手渡した。翌朝、京都駅に向かう京子ととった決断とは……



地域
連携

地域連携でまちを活性させる経営学部プロジェクト団体 「丹後村おこし開発チーム」

本学の経営学部プロジェクト団体「丹後村おこし開発チーム」が、京都府宮津市内のまちの地域活性に貢献している。地元企業などと協力し、老朽化で使用できなくなった市施設を修復するなど、「もったいない」の想いから地域の再生に力を注いでいる。また、全国の地域再生に取り組む学生団体のサミットも企画するなど、同志の連携強化にも努めている。

丹後村おこし開発チームは2004年に設立。経営学部をはじめ、BKCの学生など計56名のメンバーからなり、丹後地域の資源を活かした地域再生プランを構想し、地域や企業と連携しながら活動している。活動の原点は、地域の振興策の一環として1985年に建てられたものの、老朽化で稼働が止まっていた同市内の施設の存在で、04年にこの施設の修復に向けて地元NPO（非営利活動）団体や企業、学識者らと連携してコンソーシアムを設立し、修復活動を始めたことが話題になった。

この施設は宮津市上世屋地区にある「農林漁業体験実習棟」で「笹葺き屋根」が特徴。活動では真っ先に屋根の修復に取り掛かり、学生が地元の職人の指導を受けながら、笹葺きなどの作業を繰り返し広げた。延べ2千人以上が関わり、足掛け4年で笹葺き屋根の修復が完成。こうしたつながりが発展し現在、この地の棚田を借りて米作も行っている。

こうした地域再生活動の発展に向けて、チームはさらに動き始めた。09年9月に丹後村おこし開発チームがホストとなり、宮津市内で「大学生地域再生活動団体サミット」を開催したのだ。立命館アジア太平洋大学のLSB研究会など、全国から10大学の団体が集まり、それぞれの活動の内容について報告。さらに、今後の方向性や施策を見出すなど、新しい連携体制も築き始めている。



「丹後村おこし開発チーム」のメンバー

産官学
連携

行政、地域との連携で“地域の庭”を創造する 学生市民団体「にわわ・くさつ」

滋賀県が保有する空き地を整備し“地域の庭”をつくっている学生市民団体がある。この団体「にわわ・くさつ」は、数年間、手付かずの場所に花壇、畑、花畑を造り、市民が散歩できる公園化をめざして活動。その取り組みが地域の共感を生み、幅広い連携へと発展している。

場所はJR草津駅（滋賀県）南東約700mの地点で、架け替えにより廃川となった旧草津川の跡地。次の開発が未決定の場所で、県との協定のもと、現在は一時的に、にわわ・くさつが管理中。県からの期待を受けて、庭づくりに取り組んでいる。主要メンバーは加藤拓代表（経営4）と國松勇斗副代表（同）の2人。地域の庭は1200㎡で、活動当初は経費負担、作業はすべて彼ら持ちだったが、学内の起業家奨励の制度を活用し資金を獲得、耕運機などの農機具を使って作業している。



少しずつ“地域の庭”へと変身している

2回生時に地域の課題について調べる中、この地を見つけ、有効利用に向けて動き始めた。地域の庭構想は地域住民にも認められ、今では期待へと変わりつつある。こうした手弁当の活動は学外のコンクールで入賞するなど社会的評価も高い。また、この地の活用について考える草津市道路課が実施したワークショップのメンバーとして招かれたほか、最近では市民から花の種の提供も受けるなど、地道な取り組みから地域や行政とつながり始めた。



にわわ・くさつの2人

「にわわ」の「わ」は地域との「輪、話、和」の3つの意味を持つ。2人は「目標は、地域の方に庭づくりに参加していただくこと。庭づくりを通して地域のつながりをつくっていきたい」と目を輝かせる。

国際
連携

加速する国際化



立命館学園は1985年の国際センター設置、1998年の国際関係学部開設を機に、世界各国の大学との協力協定や、留学生の本格的な受入と日本人学生の海外派遣プログラムを開拓し、「世界に開かれた立命館」を目指して国際化を推進してきた。また2000年には日本国内で最初の本格的な国際大学として立命館アジア太平洋大学（APU）を開学した。このように立命館学園では国際化を進展してきたが、こうした取組が評価され、2009年7月には立命館大学が「文部科学省国際化拠点整備事業（グローバル30）」の採択を受け、国際化を加速させることとなった。

「国際化拠点整備事業」の採択を契機に、立命館大学において、今後数年の間に国際関係学部と政策科学部に英語コース（英語のみで学位取得が可能なコース）を新設するなど、既存の4研究科6の英語コースと合わせると、合計で11の英語コースが設置されることになる（2学部2コース、5研究科9コース）。そして、英語コースの設置による正規の留学生受入以外にも、アジアや欧米の大学との連携を強化し、短期留学プログラムの拡充などを図りながら

2020年に留学生を4005名（2008年度：1119名）に、日本人学生の海外派遣を2400名（2008年度：1517名）名に、さらに海外協定校を90カ国・地域、500機関（2008年度：59カ国・地域、379機関）にそれぞれ増やすなど、従来の取り組みの拡充を図るほか、新たな連携プログラムも開発していく方針だ。

また、立命館大学は世界8カ国、10大学が加盟する国際大学ネットワーク（International Network of Universities:INU）にも加盟し、継続的な教育・研究連携を展開している。また、08年に史上初めて開催された「洞爺湖G8大学サミット」に出席したほか、日英、日中、日印など2国間で開催されている各種学長会議に多数参加するなど、学長レベルのネットワーク形成も積極的に行っている。

さらに東京、京都、早稲田、慶應義塾の4大学とともに、米国ワシントンD.C.に「NPO法人日米研究インスティテュート」を設立し、米国トップクラスの大学との研究員の交流を通じて人材を育成する環境整備にも着手した。海外事務所についても各国・地域との更なる連携強化を目指して、新たにインド・ニューデリーなど4拠点を開設（現在5拠点）する計画を持つ。これらの国・地域では留学生の出身国・地域の校友会や父母との連携強化も視野に入れ活動を強化する。



日英学長会議での川口総長のプレゼンテーションの様子

その他
の連携

学生間連携で一大イベントも！



このほかにも、様々な連携を繰り広げ、発展につながっている。立命館大学では「高大連携」にも積極的で、高校生を対象にした講義の提供や、高校と大学が相互に知恵を出し合いながらの協力関係の構築を進めている。また、京都府内の大学による「大学コンソーシアム京都」、滋賀県内の大学が集まる「環びわ湖大学コンソーシアム」に加盟し、地域の大学や地域社会、産業界、行政と協力して地域貢献や産官学連携を推進。大学間連携も盛んで、単位互換制度なども行っている。加えて大学コンソーシアム京都では、今では京都の秋の風物詩にもなっている、学生間連携で地域を盛り上げる一大イベント「京都学生祭典」の支援も行われている。

「まちに必要なことは全部やったれ！」。 市民とともに、市民が願うまちをつくります。

なかがわ
仲川 げん さん（'98経済）

奈良市長

全国で2番目に若い市長

2009年7月、全国で2番目の若さで古都・奈良市の市長に就任した仲川さんは、温かみのある笑顔が人気の一つだ。予ねてから市に政策を提言するなど「奈良市のために尽くしたい」という思いを持ち続けた。学生時代は「国際的な課題」に関心を持っていたことから、世界の高校生が意見交換する会議の場の立ち上げを行い、さらに卒業後はNPO法人（特定非営利活動法人）の事務局長などで活躍した。こうした新たな挑戦を好む“習性”は、子どもの頃から育まれ、自身の大きな武器となっている。

仲川 小さい頃から好奇心旺盛で、高校時代は文化祭に夢中でした。2年生時から「3年生になったらこんな文化祭をやってやろう」というビジョンを持っていたほどです。自分たちの代では実行委員長になり、企画から運営まで真剣に取り組みしました。半面、勉強に熱心だったとはとても言い難いですね（笑）。

その後は大学受験が待っていましたが、受験勉強をスタートしたのは文化祭が終わってからでした。何しろ、頭の中は文化祭一色でしたので…。当初は比較的得意な「国語」と「英語」だけの受験を考えていましたが、志望していた大学、学科では社会系の科目も必要ということに気づきました。苦手な「社会」をどう攻略するか、という難問にぶち当たりましたが、悩んだ挙句、1カ月間集中して「現代社会」を徹底学習する方法を選択しました。

「現社」を選んだ理由は、残り時間を考えて「いかに楽をする

か」という“魂胆”からでした。そのため、教科書が最も薄い現社を選択したのですが、この集中学習は意外にも大きな収穫だったのです。現社は世の中の動きとリンクしていたため、勉強するうちに経済や政治に興味を持ち、経済学部での学びに対する関心が高くなりました。

当時は首都圏の大学への進学も考えていましたが、親から「これから関西がおもしろくなる」という助言を受けたことも影響し、立命館を選びました。関西の大学の中で、真っ先に合格したのが立命館。その時点で入学を決めました。これも縁だと思います。

資源や環境の学びから

ユニークな高校時代を過ごした仲川さんが晴れて立命館の門をくぐった。4年間通じて、持ち前の「順応性」と「行動力」を発揮。中でも環境問題をはじめとする、国際社会の課題について高校生が議論する「ユース国連会議」を国内で初めて立ち上げるなど、活発な学生生活を送っていた。

仲川 学生時代は色々なことに取り組みしました。いわゆる優等生ではありませんが、学ぶことは好きでしたし、興味ある授業は未登録でも受講していましたね。

学生時代、最も学びが多かったのはゼミナールです。所属していたのは、経済学部と国際関係学部の合同開講で、資源環境やエネルギー政策をテーマにしたゼミです。当時は「気候変動



枠組条約第3回締約国会議」(COP3、京都会議)が開催されるなど、各地で「資源」や「環境」について盛り上がりを見せていました。

元々、「ユース国連会議」の代表を務め、この会議を広める活動を行っていたので環境や資源、開発援助などは関心の高い分野でした。加えて、学部を越えた新しいつながりも構築したいと考えていた私にとって、打ってつけのゼミでした。卒業論文のテーマは「東アジアの経済発展とエネルギー安全保障」です。ゼミでの研究からエネルギー分野への関心がさらに高くなり、卒業後は帝国石油株式会社に就職しました。ゼミは進路選択に大きく影響しましたね。

これまでの自分を振り返ると、私は与えられた状況や環境から新しいものを見つけていくタイプで、良く言えば順応性がある人間と捉えています。子どもの頃から、そういった傾向が強いですね。おそらく、自分自身に圧倒的な強みや能力がないことをある程度自覚した上で、どうやりくりするのかという“生き残り策”を常に考えていたからだと思います。例えるなら、足の短い人が長い人に勝つためには、足の回転を上げるしかないのと同じです。私は回転数で勝負しています。

奈良のNPOの支援体制を構築

帝国石油に入社後、経理部に配属。数字は苦手だったが、ここでも順応性を活かし、日が経つにつれ“数字好き”へと変わっていった。3年間勤めた後、退職して地元奈良のNPOで活動。「自分に求められること」について、考え抜いた末に選んだ道だった。民間企業で培った経験を活かし、新たに奈良のNPOの支援体制を構築する。

仲川 所属していたNPOは、奈良県内の小中学校においても活動していましたが、ここで衝撃を受けました。特に中学生は鎧でも着せられているかのごとくガチガチで、私たちの問いかけに対して無表情な生徒が意外に多かったのです。子どもが抱える問題への関心が高まり、その背景にある根本の問題を絶たなければならぬと思いました。

また、活動が続ける中で、各NPOに共通する課題や弱点に気づきましたが、中でも重大なのが「組織力の弱さ」でした。NPOの活動は現場で困っている人を助けることが基本です

が、目先ばかりでは長期的経営や支援者の増加に向けての対策に目が行き届きません。そして、そもそもNPOの活動の根底にある、問題が起こる背景の根を絶つための仕組みづくり、あるいは政策に関する提言ができなくなってしまう。当時、NPOの数は増えていたものの、それぞれ自分の団体を運営することに手一杯で、後発組が育ちにくい状況でした。その現状打破に向け、NPO各団体を支援する「奈良NPOセンター」を設立しました。それが、当時の私の役割という思いが強くありました。

センターでは、団体運営のマネジメントや政策に関するプレゼンテーション方法、さらに諸問題への対処方法など、至る所でこれまでの経験が活かされました。各NPOをサポートするには、理論と現場の両方への意識が必要になりますが、ゼミで行った議論や、学生時代の課外活動のお陰で違和感なく、こうした意識を持つことができました。

大学では体系立った学問を学ぶのもひとつですが、重要なのは吸収した後に「それを土台にして、どう自分の中で再構築するのか」という工夫だと思います。振り返ると、それが、私が立命館で培った「学ぶ力の源泉」だったと思うことがしばしばあります。

「市民のために」ー。 市長選出馬を決意

活動を続ける中で、NPOの組織力は目に見えて成長した。しかし、仲間うちの自己満足に終わることも多く、本当に市民が求める社会を実現するには、より実践的な社会変革が必要だという思いから、新たな一步を踏み出し、市長選への出馬を決意する。

仲川 NPOでは企業のCSR（企業の社会的責任）の支援や、地域と企業のコミュニケーションプログラムの提案、複数の大学での講義など「まちにとって必要なことは全部やったれ!」という気持ちで活動していました。自分たちが住むまちを良くしたいという目的は皆同じなのです。それに対して起こすアク

ションを提案することが私の役割でした。

民間企業やNPOの世界では、明確な目標に向かって突き進むことが当たり前でした。しかし、行政だけは何がしたいのかが見えず、むしろ非常に遅れている印象が強かったのです。地域の問題から目を背けているな、と。その価値観を変えなければならぬと強く思いました。

行政職員や政治家としての経験もない私でしたが、行政がフォローできない公のニーズを民の立場で担ってきた自負と、政治の仕組みをつくるバックボーンの部分として存在する「現場の声」を政策提言してきた経験がありましたので、市長の仕事はまったくの畑違いとも思いませんでした。ジャッジするのは市民の皆さま。自分は機会を与えてもらえたら最大限努力する、という気持ちだけでしたね。

私は、10年、いや100年先のまちの未来を見据え、先頭に



立って市民を導くのが市長の役割だと思います。そのためには、現在のまちの姿や課題をがっつりとつかみ、市民とともに議論し、アクションを起こしていくことが最も大切なのです。

また、真実がどこにあるのか、ということも常に問いかけていきたいと思います。昔からそうですが、私は物事を斜めから見る傾向があります。「社会を正面で捉えず、はす向かいから見る」。すると立体的に見え、正面からは見えなかった部分に気づくのです。こうした見方は大学でさらに磨かれました。私の中では“立命館的”な視点と捉えています。

校友の集まりから見える世界の縮図

2010年に「平城遷都1300年祭」や「世界歴史都市会議」が開催される奈良市はいま、国内、あるいは世界から注目されている。そんな奈良市の顔である仲川さんが日ごろから意識していることは「走りながら考える」。現場と理論の両立を重視する仲川さんらしい。

仲川 学生の頃、ボランティアに全力を注いでいましたが、現場で活動すればするほど、学びに対する意欲が高まりました。そして、学問に打ち込み始めると、今度は「現場はどうなっているのだろう」と気になり、現場に意識が向きましたね。そういったサイクルがうまく機能するのが「立命館らしさ」ではないでしょうか。

立命館の学生は卒業してから伸びていく、というイメージが強いです。各方面で核となる人材として、活躍されているようです。同じ大学で学んだ者として、とても嬉しいことです。卒業後のつながりとして、校友同士で様々なリンクを張りながら各自が持つビジョンをつないでいけば、さらに良い関係が構築できると思います。世界中、いろんな所にいる立命館校友が「せーの!」で集まれば、そこはどのような場になるのでしょうか。私は、そこで世界の縮図を見ることができると思うのです。一度、そういう機会があれば、おもしろいかもしれませんね。

Gen Nakagawa



- 1976年 奈良に生まれる
- 1994年 立命館大学経済学部 入学
- 1998年 同 卒業
- 帝国石油株式会社 入社
- 2002年 奈良NPOセンター入職
- 2005年 同センター事務局長就任
- 2007年 同センター常務理事就任
- 2009年 奈良市長就任
- 現在に至る

平城遷都 1300年祭

2010年開催

公式マスコットキャラクター **せんとくん**

©Heijo-kyo 1300th Anniv.



千葉県

千葉県校友会会長
やまもと よしお

山本 良夫さん（'62経済）
2002年10月就任

どのような学生時代を過ごされましたか。

山本 ● 兵庫県尼崎市で生まれ、親元から通える大学への進学を考え、立命館を選びました。1回生から多くの友人に恵まれ、とても楽しく過ごしたことを覚えています。立命館は学費が安く、当時は分割納金も可能で、庶民に優しい最高の大学でした。

学生時代は百貨店や製鉄会社、レコード会社など、様々な業界でのアルバイトを経験し、貯めたお金で全国各地を旅するのが好きでした。時には汽車で巡ることもあり、煙で顔が真っ黒になったこともありましたね（笑）。現在の母校は当時と比較しようがないぐらい、近代的な大学へと変貌を遂げています。いい意味であか抜け、風格も備わってきたと思います。



山本会長



学生時代の山本会長（左端）。
友人たちと平安神宮にて

卒業後、どのように千葉県校友会と関わっていったのでしょうか。

山本 ● 20代後半から仕事の関係で東京勤務となり、30代半ばに船橋市に家を建てて以降、千葉県民になりました。そして、45歳で会社を興してからは懸命に働く日々が続きました。当時、校友会からの案内が届いているのは知っていましたが、正直、それどころではなかった。とにかく必死に働いていましたから。

しかし10数年前、自宅近くの会場で総会が開催される際に「一度参加してみたら」と妻からアドバイスを受け、思い切って参加しました。すると、とても有意義で、以降も参加するようになりました。そして、人との付き合いの幅も広がっていきました。あの時の妻の一言に感謝しています。

こうした具合に、私は人生の節目に訪れる運と縁には恵まれていると思います。物事は一人で判断せず、周囲と相談しながら進めていく方で、それも信頼できる人が常に側にいるからこそできることだと思っています。周囲の人に感謝していますよ。だからこそ、人に対する「誠実さ」を日頃から肝に銘じています。

山本会長がめざす校友会像について教えてください。

山本 ● 全国的に「若手校友の参加」が課題となっているようですが、それほど悲観していません。私自身もそうでしたが、若い世代は仕事が忙しく、校友会活動には目が向かないと思うのです。それよりもむしろ、50歳以上の方が参加しやすい会にしていきたい。初めての方が参加しやすく、そして2回目、3回目の参加につながっていくような組織にしていけないと校友会の発



千葉県校友会のロングラン企画「歴史地理探訪会」の参加者たち

展はありません。

若者の参加については、若手中心の組織「チームRitsちば」があり、新しい企画を打ち出すなど懸命です。若者には若者のペースがあり、集まり方もそれぞれあると思います。まずは価値観の近い若者同士が集まり、将来につながればと思っています。実際に若手校友の参加が増えしており、千葉県校友会は活気づいていますよ。

また、会の団結力の強化をめざし、全会一致を原則としています。現在、60名の役員がいますが、すべて役員会（2ヶ月に1度）の合意のもとで決定しています。それが上下関係や垣根のない、素晴らしい人間関係につながっていると思います。

さらに「千葉」「葛南」「東葛」の3ブロックの活動が活発で、文化やスポーツにふれる幅広いイベントを展開しています。中には18年間、計36回続いているロングラン企画「歴史地理探訪会」もあります。年次総会は年間の数多くの活動の中の一つという位置づけです。総会には毎年、約90名が足を運んでいます。その他のイベントにも多くの校友が参加し、その数は年間延べ1千人を超えているのです。各ブロック企画の重要性を物語っていると思います。

私たち校友は大学のPR部隊。最終ラインで立命館の発展を支える存在でありたいです。応援することしかできませんが、微力ながら母校のために誠実に取り組みたいです。

<http://www.ne.jp/asahi/rits/chiba-koyukai/>

千葉県校友会

設立: 1985年
会員数: 3100名 (2009年12月現在)
*県内在住の校友
総会時期: 例年10月
総会参加者数: 約90名



都道府県
校友会長を
訪ねて

島根県

島根県校友会会長

さ か ね ま さ る

坂根 勝さん('62理工)

1999年7月就任



坂根会長

いる人が意外にいます。私にとって母校は心の拠り所なのですが、同じように思っている人も多いのではないのでしょうか。

いま、立命館校友は世界各地で活躍しています。このように発展著しい母校と縁があるということが、卒業生として嬉しい。これからも可能な限り、母校をサポートし、校友会活動を続けて行きたいです。

島根県校友会

設立:1961年
会員数:440名(2009年12月現在)
*島根県在住の校友
総会時期:例年秋、もしくは冬
(近年は出雲駅伝に合わせて開催)
総会参加者数:約35名



2009年の総会の様子

立命館での思い出をお聞かせください。

坂根●父親が水道関係の会社を経営しており、将来、親の後を継ぐことも考え、理工学部を選びました。立命館を受験した時、試験が難しく、少しへこんだのですが、泊めていただいた父の知人宅で励まされ、生まれて初めて銭湯に連れて行ってもらったことは、今でも心に残っています。

在学中は自動車部に所属し、授業以外の時間は殆ど、車のガレージにいましたね。何日間もかけて国内の各県を車でまわる「日本一周ラリー」にもインスペクター(査察員)として参加しました。この自動車部の活動の思い出が最も心に残っています。

また、アルバイトは自動車教習所の指導係や宣伝カーの運転手などを経験しました。やはり、自動車関係でしたね。思い返すと、自動車漬けの学生時代。でも、本当に楽しかった。

島根県校友会といえば

出雲駅伝を熱心に応援されていますね。

坂根●卒業して4年間、大阪で働いた後、島根に戻って家業を継ぎました。そして、すぐに校友会に参加しました。積極的に活動していたことが認められたのか「熱心なやつ」と先輩方から目を掛けられ、それからずっと変わらず、楽しく参加させていただいています。

島根県校友会では年次総会と出雲駅伝が二大イベントです。総会は、年に一度の“元気をもらう場”と皆さん言うてくれており、運営する立場の者として、とてもやりがいがあります。集まる方に楽しんでいただけることを皆で心掛け、取り組んでいます。



自動車部のメンバーとの集合写真(後列右端が坂根会長)

駅伝の応援は、出雲支部を中心に島根県校友会を挙げての活動を繰り返しています。県外の方もぜひ一度、応援に来ていただきたいですね。このように校友を突き動かすのは「後輩のために何か出来ることをしたい」という一心だけだと思うのです。本当に皆さん、熱心に選手たちを支えています。

レース後は選手の激励会を開いており、これまでずっと「一つずつ順位を上げて行こう」とエールを送っていました。その思いが届いたのか、2008年は初入賞となる7位、09年は最高位の6位入賞を果たしてくれました。選手が頑張って、われわれの期待に応えていていることを思うと、とても嬉しい。さらに、近年は校友だけでなく、父母の方々も応援に加わって下さるなど、支援の輪が広がってきています。大変な盛り上がりを見せていますよ。

どのような校友会にしていきたいですか。

坂根●島根県校友会では毎年、ゴルフコンペの「立同戦」を開催しています。交互の当番制で和気あいあいとしていて面白いですよ。近いうちに、このコンペの規模を広めようと計画中で、近隣県の校友会に声をかけていく予定です。さらに、同志社大学だけでなく、京都の大学を卒業した人が集まれるような大会も開催していきたいと思っています。

また、若い人が集まる会や青年部もつくり、今以上に校友会を活性化させたいという気持ちもあります。色々な所から、様々なかたちで発展させ、あらゆるかたちの交流へとつなげていきたいですね。

校友の中には、見えない所で学生を支えて

ホームカミングデーは、母校立命館大学が校友の皆様を温かく迎え入れる一日です。母校へ帰って来ていただき、昔の学生時代に思いをはせながら立命館大学の今にふれていただきたいというのが趣旨です。当日の運営には学生も多く参画しますので、校友の皆さまと学生との貴重な交流の場にもなると思っています。

まさに世代を超えて絆を深めていただけるホームカミングデー！ご学友同士、ご家族とともに母校での一日を心ゆくまでご満喫ください。

両キャンパス共通

大福引抽選会！

両キャンパス同時開催！盛りだくさんの景品がズラリ！

学部・研究科、同窓会による企画！

講演会や交流会など、それぞれの特色ある企画を開催します！

校友＆学生の参加型イベント！

校友の皆さまが参加できるイベントを取り揃えています。

学生と校友の交流ブース設置！（予定）

世代の壁を越えたつながりをつくりましょう！

盛りだくさんの学生企画！

スポーツ、学術、学芸などの学生課外活動団体による企画です。

事務局からの
お願い

大福引抽選会景品ご提供のお願い

ご提供していただく物品の情報があればお知らせください。

ホームカミングデーは手作りで企画を進めています。

現在、事務局では「大福引抽選会」に景品をご提供いただける方の情報を集めています。皆さまのご協力をお願いします。

景品ご提供に関する問い合わせ先

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀1番地 立命館大学社会連携課内
ホームカミングデー事務局（担当：古橋・松田）
TEL.075-813-8216 FAX.075-813-8217
E-mail：yuichiro@st.ritsumeikan.ac.jp

立命館の絆。世代を越えて“ふるさと”に帰る1日

ホームカミングデー

開催のお知らせ

ただいま楽しい企画を考案中です！

とき 2010年6月6日（日）
11:00～17:00（予定）

ばしょ 立命館大学衣笠キャンパス
びわこ・くさつキャンパス

主催 立命館大学
共催 立命館大学校友会
立命館大学父母教育後援会（予定）



「大学の発展を感じたい」、

「恩師との出会いや現役学生の活躍に触れたい」一。

そんな皆さまの要望にお応えし、2010年6月6日（日）に衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス（BKC）において「ホームカミングデー」（略称：HCD）を開催します。

現在、皆さまが楽しくなるような催しを企画中。

その中身を少しのぞいてみましょう。

衣笠キャンパス

3Dで広小路を再現！

3D仮想空間メタバースによる広小路校舎の再現のほか、当時の校舎のパネル展示などを繰り広げる「広小路展」（仮称）は必見です。

白川静先生の生誕100周年記念展示！

記念講演会やパネル展を実施する予定です。

山田洋次監督のトークショー開催！（予定）

本学客員教授の山田洋次監督が、映画にかける情熱を語ります。（P5に関連記事）

その他の企画！

「著名校友のトークセッション」や「校友の若手芸人が出演予定のお笑いステージ」、京都歴史回廊協議会などによる企画も予定しています。

BKCキャンパス

著名人による講演やトークセッション！

脚本家で校友の井上由美子氏や、カリスマディナーと呼ばれる藤巻健史氏がそれぞれ講演するほか、貴乃花親方ら著名人によるトークセッションなど、盛りだくさんの内容です。

HCD杯のど自慢大会！

大野美佐子氏や千葉山貴公氏ら芸能界で活躍中の校友歌手が出演予定です。

校友と学生の音楽コラボステージ！（予定）

校友と学生が融合した音楽イベント。貴重なステージです。

その他の企画！

「キャンパスツアー」や「校友＆学生の出会いセッション」、「地元市民との連携企画」、「広小路・衣笠キャンパス展」など、バラエティーに富んだ企画を繰り広げます。

1月末に立命館大学ホームページ内に特設サイトをアップする予定！ご期待ください！

立命館大学ホームカミングデー

検索

オール立命館校友大会 2009

史上初の東海ブロック開催に延べ4500名が参加!

総会&レセプションパーティー



■ 一体になって校歌を斉唱する校友たち

校友会総会&レセプションパーティーは3会場で開催。今年も卒業30周年校友が招待された。メンネルコールOBと在学生による"混声"の校歌斉唱で幕が明け、山中諄会長（S40 経）は挨拶で「これからも教職員と校友の両輪で立命館を支えていきたい」と力強く話し、来賓代表の川口総長は「校友や父母と相乗効果をもたらす関係を構築し続け、ともに成長しましょう」とお祝いの言葉を述べられた。この後の総会議事は山中会長が議長を務め、すべて承認。続いて、校友会から贈られる「2009年度留学生奨学金」の授与式が行われた。

レセプションパーティーは長田豊臣理事長の乾杯発声でスタート。校友の歌手・ばんばひろふみさん（S48 経）のスペシャルライブの後、「2008年度校友会会長特別賞」を受賞した女子陸上競技部の井元章夫監督と、かるた会代表の川崎文義さん（文3）が登場した。

終盤には、次年度の校友大会開催地引継ぎセレモニーが行われ、今大会実行委員の愛知県、三重県、岐阜県、静岡県の東海地区の4校友会会長から、来年の実行委員を務める福岡県、北九州、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の9校友会の会長へ校友会旗が手渡された。東海地区を代表して林幸雄愛知県校友会会長・立命館大学校友会副会長が、今大会の報告やお礼の言葉を述べた後、次年度（10月30日に福岡市内で開催予定）の実行委員を代表して清家邦敏福岡県校友会会長・立命館大学校友会副会長が力強く抱負を語った。

この後、応援団が登場し、参加者が一体となって肩を組んで応援歌を斉唱。最後は西村義行立命館大学校友会副会長が「元気な立命館を東海ブロックで見せることができた。来年は九州ブロックでアピールしたい」と中締め挨拶を行い、閉幕となった。



■ 山中校友会会長



■ 川口総長



■ 長田理事長



■ 開催地引継ぎセレモニー



■ 留学生奨学金授与式



■ 各会場のパーティーの様子



■ 西村副会長



■ 熱唱する、ばんばひろふみさん

2009年9月27日(日)に名古屋市の名古屋国際会議場で「RITSUMEX'09 in 名古屋 オール立命館校友会大会 2009」が開催された。校友会史上初となる東海地区(愛知県)での開催で、延べ4500名が参加。立命館大学校友会、愛知、三重、岐阜、静岡の4県校友会、(財)名古屋観光コンベンションビューローがそれぞれ主催した。また、同会場で「オープンキャンパスin名古屋」も行われ、立命館大学各学部のPRコーナーや入試相談、模擬講座などを実施。前日の26日(土)には、名古屋・栄の久屋大通公園でイベントも開催され、延べ5300名が来場した。大会の各場面を写真で振り返ってみる。

プレイベント

「未来に向けて」をテーマに、「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」と「名古屋開府400年祭」のパートナーシップ事業と連携して行われ、環境への意義・重要性、産業観光の発展、歴史観光の良さをアピールするイベントが繰り広げられた。立命館大学放送局(RBC)の学生と校友の久野知美さん(H18文、ホリプロアナウンス室所属)が司会を務め、音楽ステージなどのパフォーマンスが行われたほか、立命館の活動を紹介するブースも設置。トヨタ博物館と産業技術記念館を巡る「名古屋産業観光バスツアー」も催行された。

また、タレントのコンソナさんのトークショーも行われ、所属事務所・ホリプロのチーフマネージャー

で校友の五間岩ゆかさん(H13政策)とともにステージに登場。このほか、校友のシンガーソングライター春なみさん(H16文)のミニライブやマンモグラフィー検診をPRするトークショーも行われた。



■ コンソナさん(中央)と五間岩さん(右端)のトークショー



■ 名古屋開府400年祭のマスコットキャラ「はち丸」と応援団のステージ



■ 会場に設けられたブースの様子



■ 春なみさんのライブ



■ 多くの人が集まった久屋大通公園

プレミアムトークショー

校友をはじめ父母、学生、一般の方の計3000名が来場。司会は飛鳥井雅和さん(S39法、元KBS京都アナウンサー)と高阪真希さん(H16文、NHK静岡放送局キャスター)が務めた。トヨタ自動車(株)代表取締役会長の張富士夫氏による講演と、張氏に加えて、校友で前東京ヤクルトスワローズ監督の古田敦也氏(S63経営)、元シンクロナイズスイミング日本代表の武田美保氏(H11産社)、川口清史立命館総長がパネラーを務めるトークセッションが行われ、本郷真紹立命館副総長によるコーディネートのもと「求められる人物像」をテーマに、それぞれ持論を展開した。



■ 司会を務めた飛鳥井さんと高阪さん



■ 張氏の講演



■ トークセッションの様子

展示コーナー

茶道研究部、囲碁研究部、将棋研究会、かるた会、「EV-Racing(ソーラーカー)」、「内燃機関研究会(フォーミュラカー)」による学生の企画展示や体験コーナー、からくり人形師九代・玉屋庄兵衛氏の人形の展示や実演、トヨタ博物館の車両展示といったユニークな企画が繰り広げられたほか、女性校友を対象とした「マンモグラフィー検診」も行われた。



■ からくり九代・玉屋庄兵衛氏の実演



■ マンモグラフィー検診



■ 学生と校友による囲碁対局



■ トヨタ自動車が開発している「i-unit」

都道府県校友会ほか

- ◆ 9/27 愛知県校友会総会
(421名・名古屋国際会議場)
- ◆ 9/27 静岡県校友会総会
(50名・名古屋国際会議場)
- ◆ 10/3 Rちば校友の集い
(100名・船橋グランドホテル)
- ◆ 10/13 和歌山県校友会総会
(100名・ダイワロイネットホテル和歌山)
- ◆ 10/17 第60回福岡県校友会総会
(250名・ソラリア西鉄ホテル)
- ◆ 10/18 埼玉県校友会総会
(160名・ラフレさいたま)
- ◆ 10/24 北九州校友会総会
(80名・ステーションホテル小倉)
- ◆ 10/31 佐賀県校友会総会
(70名・ホテルニューオータニ佐賀)
- ◆ 11/7 島根県校友会総会
(37名・サンラポーむらくも)
- ◆ 11/7 宇部小野田校友会総会
(25名・ホテル河長)
- ◆ 11/13 鳥取県東部校友会総会
(50名・しいたけ会館「対翠閣」)
- ◆ 11/14 栃木県校友会設立25周年記念総会
(29名・宇都宮東武ホテルグランデ)
- ◆ 11/14 広島県東部校友会総会
(60名・福山ニューキャッスルホテル)
- ◆ 11/14 大分県校友会総会
(85名・トキハ会館)



Rちば校友の集い



第60回福岡県校友会総会



埼玉県校友会総会



北九州校友会総会



佐賀県校友会総会



島根県校友会総会



宇部小野田校友会総会



栃木県校友会設立25周年記念総会



広島県東部校友会総会



大分県校友会総会

- ◆ 11/14 鹿児島県校友会総会
(71名・鹿児島サンロイヤルホテル)
- ◆ 11/21 兵庫県校友会総会
(110名・湊川神社楠公会館)
- ◆ 11/28 東京校友会総会
(160名・グランドプリンス新高輪)
- ◆ 11/28 鳥取県西部校友会50周年記念総会
(60名・米子全日空ホテル)
- ◆ 11/29 茨城県校友会総会
(35名・水戸三の丸ホテル)
- ◆ 12/5 石川県校友会総会
(100名・ANAクラウンプラザホテル金沢)
- ◆ 12/6 群馬県校友会総会
(28名・群馬県庁31階レストランVolerCygne)



鹿児島県校友会総会



東京校友会総会



茨城県校友会総会



石川県校友会総会

地域校友会

- ◆ 9/10 英国校友会懇親会
(16名・Ye's)
- ◆ 9/26 長野県校友会北信地区総会
(20名・ちゃんこ亭えん楽)
- ◆ 9/27 三重県校友会中勢会総会
(70名・名古屋国際会議場)
- ◆ 9/27 京田辺支部総会
(40名・ウェルサンピア京都)
- ◆ 10/9 北摂校友会総会
(56名・ホテルアイボリー)
- ◆ 10/16 上海校友会新組織発足会
(40名・太官府)
- ◆ 10/17 高槻・島本校友会総会
(61名・高槻現代劇場)
- ◆ 10/17 長野県校友会中信地区総会
(15名・ほりでーゆ〜四季の郷)
- ◆ 11/14 長野県校友会飯伊地区会総会
(25名・殿岡温泉 湯〜眠)



英国校友会懇親会



北摂校友会総会



上海校友会新組織発足会



高槻・島本校友会総会



長野県校友会飯伊地区総会

- ◆ 11/21 広島県西部地区校友会総会
(20名・みやじま杜の宿)



広島県西部地区校友会総会

- ◆ 11/27 愛媛県校友会今治支部総会
(19名・笹)

職域校友会

- ◆ 9/18 Rits不動産ネットワーク総会
(50名・京都ホテルオークラ)
- ◆ 10/16 西宮市役所立朋会総会
(38名・ノボテル甲子園)
- ◆ 11/12 尼崎市役所比叡会総会
(40名・ホテルニューアルカイク)
- ◆ 11/28 全国行政書士立命会設立総会
(30名・朱雀キャンパス)
- ◆ 11/29 滋賀銀行比叡会総会
(65名・滋賀ビル 中華料理かすが)



Rits不動産ネットワーク総会



尼崎市役所比叡会総会

学部・学科校友会

- ◆ 9/5 市川会総会
(10名・Tawawa)
- ◆ 9/12 建設会奈良支部総会
(45名・奈良ロイヤルホテル)
- ◆ 9/12 上野俊樹ゼミ同窓会(上野俊樹先生を偲ぶ会)
(90名・京都タワーホテル)
- ◆ 9/20 フランス語副専攻('01年度BKC)同窓会
(5名・きくおか)
- ◆ 9/21 経営研究会同窓会総会
(24名・古都 梅)
- ◆ 9/27 愛知県衣笠会総会
(30名・名古屋国際会議場)
- ◆ 10/3 文学部哲学同窓会総会
(40名・アークホテル京都)
- ◆ 10/16 昭和22専経同窓会総会
(10名・木曾路京都四条通店)
- ◆ 10/24 建設会京都支部総会
(85名・京都タワーホテル)
- ◆ 10/24 岐阜県建設会
(31名・グランパレホテル)
- ◆ 10/31 機友会京都支部総会
(20名・京都ガーデンパレスホテル)
- ◆ 10/31 関東立電会
(18名・東京キャンパス)



市川会総会



建設会京都支部総会



岐阜県建設会総会



機友会京都支部総会

- ◆ 11/7 第1回薬師寺ゼミ同窓会
(60名・ホテルグランヴィア京都)
- ◆ 11/8 機友会関東支部総会
(20名・清澄庭園内「大正記念館」)
- ◆ 11/21 村上弘ゼミ同窓会総会
(20名・衣笠キャンパス諒友館)
- ◆ 11/21 立命館大学OH同窓会総会
(31名・からすま京都ホテル)
- ◆ 11/28 経済学部同窓会
(70名・グランドプリンス新高輪)
- ◆ 11/28 地理学同窓会第2回地理学教室ホームカミングデー・総会・懇親会
(59名・清心館、京都タワーホテル)
- ◆ 11/29 文学部校友会総会
(100名・衣笠キャンパス清心館)
- ◆ 12/5 産業社会学部リユニオン総会・映画上映会・懇親会
(282名・衣笠キャンパス以学館)



関東立電会



立命館大学OH同窓会



地理学同窓会

サークルOB・OG会

- ◆ 10/4 軽音楽部OB会SUPER SESSION 2009 in OSAKA
(80名・ライブ&バー WAZZ)
- ◆ 11/21 証券研究会OB会総会
(44名・京都聖護院 御殿荘)



軽音楽部OB会

その他の会

- ◆ 10/3 立命館慶祥会同窓会交流パーティー
(120名・札幌パークホテル)
- ◆ 10/21 建命会50周年記念総会
(35名・京都タワーホテル)
- ◆ 10/23 合唱団若者OB会合唱発表会
(51名・文化パルク城陽)



合唱団若者OB会合唱発表会

校友会HP内に 「校友求人受付ページ」を開設しました!

立命館大学校友会ホームページ内に、校友の皆さまから求人提供をいただき、在学生の就職支援につなげるページを開設しました。立命館大学HP内右側にある「キャリアオフィスからのお知らせ」のバナーからアクセスしていただき、簡単な手続きでご登録いただけます。2009年度は大変厳しい就職戦線となっております。多数の校友の皆様からのご協力をお待ちしています。



校友会HP右側にある
このバナーをクリックしてください。

学生が輝く学園づくり

— 希望と感動を与え、夢の実現を応援する —

くにひろ としふみ
國 廣 敏 文 学生担当常務理事

学生がいいきと輝きながら成長し、夢を実現できるよう、立命館大学では正課・課外の両面を学びの場として、さまざまな支援を行っています。今回は、学生生活を包括的にとらえ、その成長をサポートする役割を担う國廣敏文先生に、お話をうかがいました。

まず学生支援についてどうお考えですか。

私立の総合大学である立命館大学の優れた点の一つは、個性豊かで多様な学生が学んでいることです。全国、さらには世界から、学業優秀な者、トップレベルのアスリートなどを含め多彩な能力を持った学生が集い、個性を磨いています。私たちの役割は、学生の個性を伸ばし、それぞれの夢や目標を実現できるよう成長を支援することです。

学生が成長する場所は、教室だけではありません。課外活動や社会生活の中でも学ぶべきことはたくさんあります。「正課と課外の有機的統一」を目標に掲げ、学生生活全般を通してトータルに支援しようと考えています。

具体的にはどのような支援を行っているのでしょうか。

学生の成長を「入口」「中身」「出口」の三段階に分け、各段階に適した支援を行っています。「入口」とはつまり、入学前後の時期で、学びへの動機づけが中心です。学生生活にあたる「中身」の支援には、たとえば修学支援として奨学金制度が

挙げられます。現在、より活用しやすいよう総合的な奨学金政策の見直しを進めています。また心身の悩みや健康問題の相談に乗るなど、生活の支援もあります。その他、インターシップ、ボランティア活動、クラブ・サークル活動など、多様な活動を支援する体制を整えています。中には、オリターやエンターといった正課の授業と密接にかかわる立命館独自の活動もありますね。「出口」では、進路・就職支援です。昨今の厳しい就職状況の中でも学生が希望の進路を獲得できるよう、キャリアセンターやエクステンションセンターは最大限の支援を行っています。

課外活動で得られる成長とは、
どんなものとお考えですか。

特に「人間形成」に及ぼす影響が大きいですね。ひとつの目標に向かって仲間と切磋琢磨する課外活動は、協調性や社会性、リーダーシップといった人間的成長を促すだけではなく、学生の人生において、大きな財産になると考えています。学内外のどんな活動においても、常に「社会や世界とつながっている」ことを意識することが成長につながるのです。社会に出れば、社会人としての行動様式が求められます。マナーやコミュニケーション力は、机上ではなかなか培うことができません。また社会では思うようにいかないこともたくさん経験するはずです。苦しい時、困難にぶつかった時、それを乗り越える持久力や忍耐力など、社会で必要な力を培うことができるというのが課外活動なのです。

多くの学生が課外活動で輝いていますが、
特にスポーツでの活躍が顕著です。

スポーツは、私たちに勇気と感動を与えてくれます。これまでに6度の学生日本一に輝いたアメリカンフットボール、日



日本拳法部の学生たちと國廣先生

本を代表する駅伝大会で毎年優勝を争う陸上競技部をはじめ、多くのクラブが全国に名をとどろかせています。野球、ホッケー、アーチェリー、弓道、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール部…、枚挙にいとまがありません。こうした活躍は、もちろん学生自身の能力と努力のたまものです。しかし強くなるためには、それに加えて、良い指導者、必要な施設・設備の整備、友達や先生、父母や校友などからの励まし、支えてくれる人たちの存在も欠かせません。これらが整って初めて、学生は自分の力を最大限に発揮し、極みへと登っていくことができるのです。

立命館大学では1980年代から「スポーツ政策」を策定し、組織的、体系的、計画的に指導者や施設の充実に努めてきました。支援は、トップレベルのクラブだけにとどまりません。スポーツ政策では、「スポーツの大衆化と高度化」を掲げています。トップアスリートを支援する「高度化」も重要ですが、一般の学生にとってもスポーツは、多くを学び、成長する機会です。学生がそれぞれの能力や希望に応じてクラブ、サークル活動に打ち込み、大学全体にスポーツを振興する雰囲気醸成されるよう、多方面に支援を展開しています。

私自身も日本拳法部の部長をしています。つい先日、全国大会の応援に行ってきました。日本拳法は、心身の全エネルギーを使う激しい競技です。勝負に勝っても負けても、力を出し切り、汗と涙にまみれた選手の顔はすばらしいものです。そんな学生の姿を観ることが、私の喜びでもあります。

2010年4月には、 新たにスポーツ健康科学部も誕生します。

新学部では、総合的・学際的にスポーツと健康を学び、社会的にも関心の高まっているスポーツ健康分野、トップアスリートのパフォーマンス向上などの教育・研究に取り組んでいます。ここでは、正課と課外活動が、より科学的、実践的に融合した形で、学びに生かされることになります。各分野のトップレベルの教員を結集し、将来、専門職業人や研究者を含めて、社会の多方面で活躍できる人材を育成したいと考えています。そのために、大学院も同時に開設します。新学部の誕生が、課外活動のさらなる発展にもつながるのではと期待しています。

学生支援における 今後の課題、目標をお聞かせください。

近年「教育の質の保証」が叫ばれていますが、課外活動でもこうした「保証」と「検証」が今後求められるようになるでしょ



う。目標を定め、継続的・体系的に支援するとともに、その達成度を評価し、次の改善につなげられるような仕組みを整えていくことが大切だと考えています。

私は常々、立命館には三つのすばらしい宝物「立命三宝」があると思っています。一つは、「自由と清新」という建学の精神、二つ目は「平和と民主主義」を掲げた教学理念、最後は、学園の魂ともいべき立命館憲章です。精神、理念、魂、この三つこそが、立命館の成長を根底で支えてきたのであり、他の大学には決してまねのできない独自性です。「立命三宝」に共鳴し、一生立命館にかかわってくださる人をもっともっと増やすこと。それが私たちの使命だと考えています。

最後に先生ご自身についてもうかがえたらと思います。 休日はどのように過ごされますか。

最近忙しく、休日には音楽を聴いて体を休めることが多いですね。ショパン、サティといったクラシックのピアノ曲やジャズ、ビヨンセやブリトニー・スピアーズなども聴きます。時間がある時は、山登りやキャンプ、バイクなどのアウトドアへよく出かけていました。バイク歴は40年以上になります。行き先も、何をするかも自分次第。自由を感じながらマシンを操り、日常から解放される時間が好きですね。

聞き手・編集 立命館広報課

立命館のゼミナール訪問

衣笠 有賀ゼミ(産業社会学部)



📖 有賀ゼミ：産業社会学部スポーツ社会専攻 有賀郁敏教授 📖 ゼミテーマ：余暇社会の歴史と現代

有賀ゼミでは「余暇」について様々な角度から迫った研究が展開されています。ゼミ生同士の議論も活発で、時にはよきライバルとして切磋琢磨しながら成長しています。ゼミを取材し、有賀教授のお話をうかがいました。

Interview

「協会」の歴史を切り開く

私の研究は「ドイツにおける体操(トゥルネン)協会の生成・展開過程の究明」です。体操はドイツ語でトゥルネンといいます。19世紀初頭に生成した体操協会の特徴や、協会の活動をドイツの三月前期、1848/49年革命期の社会状況に照らしつつ実証し、この体操協会を中心としたアソシエーション(組織や団体)についての歴史研究を行っています。そして、人との関わりが希薄化しつつある現代社会の問題点と見比べながら、課題解決に向けて追究しています。

体操協会は19世紀のドイツのアソシエーションを代表する協会組織で、活動の広がりや多面性の面で特徴的です。合唱、読書などの社交も取り入れ、さらに自主消防団を結成して地域の消火・救援活動の担い手になるなど、社会参加も果たしていました。

体操協会は、同時期の他のアソシエーションと同様に様々な活動を展開しています。そこには会員間の平等、議論の重視と

Profile

有賀 郁敏 (あるがいくとし)

産業社会学部教授 スポーツ社会専攻

1980年早稲田大学教育学部卒業、1985年筑波大学大学院体育科学研究科博士課程を修了。1992年から立命館大学へ。研究分野は「近代ドイツ協会史」「アソシエーション研究」。趣味は料理と映画鑑賞で、中でも山田洋次監督の作品を好む。所属学会は日本体育学会、ドイツ現代史学会、スポーツ史学会。好きな言葉は「誠実」、父の遺言である「道理を大事にしろ」。



いう「個」を浮き彫りにした市民結社としての近代的側面とともに、職人の名誉の尊重や遍歴職人会員に対する各種支援に見られる、ある種伝統的な「共同性=絆」も見受けられます。このような市民、あるいは民衆の協会組織に投影された思想や行動を歴史の表舞台に登場させたいと思っています。昨今、公共性の視点から「協会史」研究が再評価されていますが、若い頃は「自分が切り開く」という思いで、この分野に飛び込みましたね。

ゼミでは「余暇社会」について社会科学的に探究しています。余暇社会といっても色々な角度から捉えることができ、学生たちはそれぞれバラエティーに富んだテーマを選定しています。

このゼミでは3回生と4回生で、それぞれ論文を書きます。3回生では設定したテーマについてじっくり吟味した上で「自分の研究は社会の役に立つんだ」という壮大な思いと、書くことに対する志を持ち、課題を解決する力をつけるよう、指導しています。こうした基礎となる力をつけた上で、4回生は卒業論文に挑戦します。そのため、ゼミ生には膨大な量の書籍・論文を読み込み、とにかく調べるよう徹底指導しています。

そもそも研究とは「書くこと」だという観点から、情熱を込めて書いた論文が人々の批判の眼差しの中に置かれ、評価を受け、そしてそれをバネに飛躍していくプロセスを大切にしています。また、ゼミはキャリア教育の場でもあるため、生涯に亘って生活していく力も身につけてもらいたいと思っています。

膨大な読書量から培われる力

研究テーマは「余暇」。ゼミ生たちは、若者文化やレジャー施設、また労働の分析といった、多種多様な研究に取り組んでいる。これらを研究するには膨大な課題図書を読み、しっかり考察するという作業が必要になる。ゼミ生にとって非常に厳しい作業だが、これが蓄積され、物事を幅広い視点から読み解く力が培われている。そして「社会学」という学問が少しずつイメージ化されている。

Schedule <予定>

● 3回生

前期 課題探究に必要な「知」を吸収するトレーニング期間

ゼミ合宿

後期 テーマ確定し、研究スタート

3回生論文作成

● 4回生

前期 進路就職活動支援期間

後期 卒業研究作成、発表や論文の指導

厳しさの一方で、自分たちの楽しみも忘れていない。「余暇」をテーマにしたゼミだけに、様々なイベントを企画し、皆で楽しむことも大切にしている。また、有賀教授はゼミ生のことを気にかけて、就職活動の悩みや助言をゼミ内で共有するほか、将来への不安を抱えるゼミ生とも真剣に向き合っている。それにより、ゼミの雰囲気はいつも温かく、信頼し合える環境が築かれ、活発な議論が繰り広げられる場となっている。



Student's Voice

笑顔で卒業するために最高の研究を

産業社会学部スポーツ社会専攻 4回生

三田裕一 さん



余暇という言葉に惹かれ、有賀ゼミを選びました。それが学び・研究へのモチベーションとなっています。有賀ゼミでは本を読むことが基本で、それにより物事を様々な角度からみる力がつきました。今の目標はゼミ生全員が最高の研究を終えて、笑顔で卒業することです。

BKC 小久保ゼミ (経営学部)



📖 小久保ゼミ：経営学部 経営学科 小久保みどり教授 📖 ゼミテーマ：変動する企業組織と働く人々の心理と行動

小久保ゼミでは企業組織と、そこで働く人々の心理や行動についての理論を学び、これらにまつわる事柄について、実証的に研究しています。小久保教授にインタビューするとともに、ゼミをのぞいてみました。

Interview

組織論と産業・組織心理学の視点から 企業や従業員について研究

私は「組織を成功に導くリーダーシップ」や「非正規従業員の雇用環境と働き方」、そして「若者のキャリア開発、および職業選択のジェンダー差」などについて実証的に研究しています。組織で働く人が自分の能力を最大限に生かし、かつ組織が望ましい結果を得るために必要なことについて、組織論や産業・組織心理学の立場から研究を進めています。

現在、企業を取り巻く環境は激しく変動し、企業組織も変革を迫られています。それに伴って企業と従業員の関わりも新たな展開をみせています。このような時だからこそ、企業組織とそこで働く人々の心理と行動についての考察が必要で、これまで組織におけるリーダーシップや組織風土、パートやアルバイトの働きがいなどについても研究し、ゼミでも取り上げてきました。

近年、企業のトップマネジメントの不祥事が続いたり、営利のみを目指す経営が行き詰まったりした社会状況をうけて「モラル・リーダーシップ」に再び焦点が当たってきています。企業の成長を促し、かつモラルを重視するリーダーについての研究が面白くなっています。

私は大学卒業後、企業に8年半、勤めましたが、その時に、様々な矛盾、疑問、不満を感じました。この時の経験が、私の研究の出发点

です。自分の経験についてアカデミックに研究しようと、働きながら大学院に進学し、その後退職して研究者の道へと進みました。

このゼミの特徴は文献を調べるだけでなく、働いている人に関しての実証的な研究を行うところです。3年生で行う「質問紙調査実習」では組織と働く人に関する問題をとりあげ、関連する理論や先行研究を調べて仮説を立て、それを検証するための質問紙を作成し、データ収集、統計的分析を行って、結果をまとめ、プレゼンテーションし、報告書を作成します。4年生になると、こうした作業が持つ意味について理解ははじめ、研究の面白さに気づいていきます。この実証研究の一連の流れをすべて経験したうえで、卒業論文では自分自身の研究に挑戦します。

ゼミとは専門の学問にふれながら、自分自身の頭で社会について論理的に考え、自分の人生を切り開いていく力を身につけるとともに、一生の友人ができる場所ではないでしょうか。有意義な時間を過ごしてほしいと思います。

Profile

小久保 みどり (こくほ みどり)

経営学部教授 経営学科

1981年東京大学文学部卒業後、IT大手企業に入社。約8年間勤め、1989年東京大学大学院社会学研究科入学、1991年に修士課程修了。他大学の助手を経て1996年から立命館大学へ。研究分野は組織論、産業・組織心理学。趣味は文楽、歌舞伎などの演劇鑑賞。所属学会は産業・組織心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会、日本心理学会、経営行動科学学会、組織学会、アジア社会心理学会、日本社会心理学会。好きな言葉は「志を高く」。



実証研究の経験が最大の“武器”

ゼミ生たちは身近に存在する疑問や問題を自ら調査しようという意欲をもって、主に組織行動やリーダーシップ、キャリア志向といった問題について研究。朗らかな雰囲気の中、自由な討論が活発に繰り広げられている。そして、ゼミ生から積極的に投げかけられる質問に対して、小久保教授は真摯に、時には辛辣に答えている。ゼミ生の研究内容は「観光問題」「グローバルリーダーシップ」「カリスマリーダーシップ」「キャリア志向」「同族経営」など、バラエティに富んでいる。単なるケース・スタディや思弁にとどまらず、自らの労力を使って調査する実証研究が行われている。

3年生では実証研究に必要な知識を得るために文献を調べ、そこから導き出された仮説を検証。また、質問紙調査を行うほか、質問紙を量的に評価するための統計についても深く学ぶ。こうした研究を経て、4年生の卒業論文に取り掛かる段階では、一人ひとりが研究に対する“武器”を手にするように成長している。

Schedule <予定>

● 3 年生

前期 提示された課題について文献を調べ、仮説を作成。それを検証するための質問紙の作成

夏休みにデータ収集

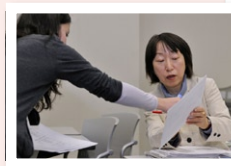
後期 収集したデータの分析、

プレゼンテーション、報告書作成

● 4 年生

前期 テーマを決めて卒論の概要を決定

後期 卒論作成



Student's Voice

ゼミで得た真実を見極める力

経営学部経営戦略系 4 年生
野村拓人 さん



研究に対する見識や見方が甘かった3年生の頃と比べ、今は多くの武器を手に入っていると感じながら卒業研究を進めています。情報が溢れ、何が真実なのか見極めることが大事な現代において、私たちは小久保ゼミで得た力を用いて社会に貢献したい、という思いで研究に取り組んでいます。

SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

相撲部

第87回全国学生相撲選手権大会 団体戦Aクラスで、相撲部史上初の3位

(11月8日 堺市大浜公園相撲場)



第87回全国学生相撲選手権大会団体戦Aクラスで、立命館大学は準決勝で東京農業大学に敗れたものの、相撲部史上初の3位に入った。

硬式野球部

藤原正典投手(文学部4年生) 阪神にドラフト2位指名

(10月29日 衣笠キャンパス)



プロ野球ドラフト会議が開催され、立命館大学体育会硬式野球部の藤原正典投手(文学部4年生)が阪神タイガースにドラフト2位指名された。衣笠キャンパスには硬式野球部や応援団など多くの学生たちが集まり、藤原投手と喜びを分かち合った。

立命館大学硬式野球部、立同戦第3戦に 勝利し秋季リーグ戦優勝!

(10月27日 わかさスタジアム京都)

関西学生野球連盟秋季リーグ戦の伝統の一戦、立同戦第3戦が開催された。立命館大学が4対0で快勝し、昨年秋季ぶりの優勝を果たした。



陸上競技部

第93回 日本陸上競技選手権 リレー競技大会、2位入賞!

(10月23日～25日 日産スタジアム)

男子陸上競技部は4×100mリレーにおいて、関西学生タイ記録となる39秒74で見事2位入賞を果たした。

これまで2005年開催の同大会において、4×400mリレーで8位入賞を果たしたのが過去最高順位であったが、両リレーを通じて初の快挙となる。



第27回全日本大学女子駅伝、 惜しくも2位

(10月25日 宮城県仙台市内)

第27回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が宮城県仙台市内で開催され、4連覇をめざした立命館大学は佛教大学に阻まれ2位となった。

今年の大会は、上位2校が大会新記録を出すという画期的なレース展開となった。



2009びわ湖大学駅伝で 2年ぶり総合優勝!

(11月21日 滋賀県)

2009びわ湖大学駅伝兼第71回関西学生対校駅伝競走大会において、立命館大学男子陸上競技部が2年ぶりの総合優勝を果たした。2位に2分24秒差をつけ2年ぶり3回目の総合優勝、関西学生対



校5連覇を成し遂げた。

柔道部

第1回全日本学生柔道女子選抜体重別 団体優勝大会で3位入賞!

(11月22日 埼玉県立武道館)

埼玉県立武道館で開催された第1回全日本学生

柔道女子選抜体重別団体優勝大会において、立命館大学柔道部が創部以来初となる学生全国大会3位入賞を果たした。



陸上ホッケー部

4年ぶりに 全日本学生男子ホッケー選手権優勝!

(10月25日 奈良県・親里ホッケー場)

曇天の中、行われた決勝戦。決勝では山梨学院大学に5-0で快勝し、4年ぶり3度目の優勝を飾った。



立命館宇治高等学校

立命館宇治高等学校硬式野球部 京都府高校野球秋季大会優勝!

(10月4日 わかさスタジアム京都)

▶優勝 (6年ぶり3回目)

秋季京都府高校野球大会決勝が行われ、立命館宇治高等学校硬式野球部は、福知山成美高等学校に8対3で勝利、6年ぶり3回目の優勝を飾った。



立命館宇治高等学校パンサーズ 初のクリスマスボウル出場決定!

(11月21日 王子スタジアム)

第40回全国高等学校アメリカンフットボール選手

権大会準決勝(関西決勝)が行われ、立命館宇治高等学校パンサーズが大阪産業大学附属高校ファイティングエンジェルスに41-21で勝利し、初のクリスマスボウル(全国大会決勝)に出場を決めた。

立命館宇治高等学校サッカー部 全国高校サッカー選手権京都大会で 初優勝! 全国大会に出場!

(12月5日 西京極陸上競技場)

第88回全国高校サッカー選手権京都大会の決勝がおこなわれ、立命館宇治高等学校サッカー部が、久御山高等学校サッカー部を1-0で破り、初優勝に輝いた。12月30日に開幕する全国大会に府代表として出場する。

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先: 学生オフィス
075-465-8167

邦楽部

第57回定期演奏会を開催

(10月30日 京都府立府民ホールALTI)

邦楽部が第57回定期演奏会を開催した。古典風の曲や箏と尺八の二重奏をはじめ、尺八と三味線という珍しい編成の曲など計6曲を披露、最後に総勢37名で大合奏を行った。当日は250名を超える来場があり、バラエティに富んだ演出ということで、普段邦楽を聴かれる方だけでなく幅広い世代の方



にも十分楽しんでいただくことができました。

囲碁研究部

「全日本学生囲碁十傑戦」、 「全日本学生囲碁王座戦」に それぞれ4名の出場が決定!

(10月11日・17日 大阪府吹田市)

11日に全日本学生囲碁十傑戦関西予選、17日に全日本学生囲碁王座戦関西二次予選が行われ、それぞれ4名が予選を突破し、全国大会への出場が決定した。



ダブルダッチサークル

「dig up treasure」のチーム 「CANADA」が全国大会にて優勝! 世界大会出場へ

(10月18日 エフソン品川)

ダブルダッチの全国大会『DOUBLE DUTCH DELIGHT JAPAN 2009』が開催され、ダブルダッチサークル「dig up treasure」から3チームが出場し、チーム「CANADA」が優勝、世界大会の出場を決めた。



応援団吹奏楽部

「第57回全日本吹奏楽コンクール」 大学の部において銀賞を受賞!

(10月17日 名古屋国際会議場)

「第57回全日本吹奏楽コンクール」大学の部において、立命館大学応援団吹奏楽部が2年ぶりに関西代表として出場し、「銀賞」を受賞した。



モダンジャズバレエ部

モダンジャズバレエ部 自主公演を開催!

(11月1日 京都市北文化会館)

立命館大学モダンジャズバレエ部が第17回自主公演を開催した。部員の家族や、学内の関係者も含



め、400名近くの人々が訪れ、開場と同時に受付には長蛇の列ができた。

茶道研究部

秋季茶会 開催

(10月25日 臨濟宗建仁寺派西来院)

茶道研究部が秋季茶会を開催した。今回の秋季茶会は、風情あふれる西来院を舞台に行われ、学生・校友・教職員・地域住民・観光客ら約130名の方々がお茶を楽しんだ。

茶道研究部の大きな特徴として表千家・裏千家がともに活動している。学園行事である校友大会への参加や、地域からの依頼茶会を積極的に行い、学内外の方々に茶道文化の深さと豊さを伝えている。



珠算部

全日本珠算競技大会団体の部において、 2等を獲得

(11月3日 群馬県藤岡市藤岡市民ホール)

全日本珠算競技大会団体の部において、2等を獲得した。



チアリーディング部

チアリーディング日本代表 第5回世界選手権大会にて優勝!

(11月28日、29日 ドイツ・ブレーメン)

「第5回チアリーディング世界選手権大会」が開催された。

日本代表には、本学の応援団チアリーダー部から橋本香澄さん(産業社会学部2回生)が「男女混成部門」に、前辻由貴子さん(産業社会学部1回生)が「女子部門」に選出された。今大会において日本代表は「女子部門」「男女混合部門」の2部門にて見事優勝を収め、2007年にフィンランド・ヘルシンキにておこなわれた第4回チアリーディング世界選手権大会に続き、両部門で連覇を果たした。

**現役プロ野球選手約30名が集結
BKCで「ベースボール・クリスマス
'09 IN びわこ・くさつ」を開催**



選手と子どもとの交流の様子

12月6日(日)、プロ野球選手会が主催する「ベースボール・クリスマス'09 IN びわこ・くさつ」がびわこ・くさつキャンパス(BKC)で開催され、23,000人が来場しました。

このイベントは“選学共同”をテーマとして、スポーツ健康科学部・同研究科の開設を機に、プロ野球選手会と学校法人立命館が締結した包括協定にもとづくものです。スポーツを通じた地域貢献をめざして開催したイベント当日は、選手会長の新井貴浩選手(阪神)や、立命館大学出身の金刀憲人選手(巨人)、大久保勝信選手(オリックス)など、プロ野球選手約30名やOB・審判が参加し、地元の子どもたちや市民との触れあいを楽しみました。

同日開催となったスポーツ健康科学部・同研究科開設記念シンポジウムでは村田兆治氏が基調講演を行い、「失敗してもあきらめない精神を持ってほしい」と話した。

**韓国映画フェスティバル開催
～韓国社会や女性の生き方を
描いた作品など6作を上映～**

10月23日(金)～25日(日)の3日間、朱雀キャンパス大講義室にてコリア研究センター主催「第4回RICKS韓国映画フェスティ

バル 自立する女性-映画俳優キム・ヘスの魅力」が行われ、6作品が上映されました。

23日にはキム・ヘスさんが登場し、映画プロデューサー李鳳宇さんとのトークセッションが行なわれました。キムさんは投げかけられた質問を自分のフィルターを通し、1つ1つ自分の言葉を使って答えている姿が印象的でした。



トークセッションの様子

**衣笠キャンパス構内に
「サブウェイ」がオープン
～学生栽培「水菜サンド」を販売～**

9月30日(水)、衣笠キャンパスにサンドイッチチェーンの「サブウェイ」が出店し、学生が栽培した水菜を使ったオリジナルメニューが登場しました。

立命館大学のキャンパスへのサブウェイ出店は、びわこ・くさつキャンパスに次いで2店目。地産地消や健康的な食事の提供を目的に、メニューには学生団体「PNCI 屋上農業事業」(下写真)が栽培している水菜を使った「水菜&シーザーチキンサンド」(420円)を加えました。当面は個数限定で販売しています。



PNCI屋上農業事業のメンバー

**尿発電によるワイヤレス
尿漏れセンサーシステムを開発**

理工学部電子情報デザイン学科・道関隆国教授の研究室では、このほど尿発電によるワイヤレス尿漏れセンサーシステムを開発しました。人間の尿で発電する電池を用いることにより、発電の有無で尿漏れ検出を行うとともに、得られた電力で送信機を駆動することで、無線での尿漏れ検出を可能にしました。病院等での高齢者介護の現場において、本システムを被介護者のおむつに取り付けておけば、交換が適切にできるようになり、高齢者の不快な時間の短縮にも役立ちます。



論文賞を受賞した田中さん(左)と道関教授



Best Student Paper Awards

開発に携わった田中亜実さん(理工学研究科・M1)は、本成果を10月末にニュージーランドにて開催された米国電気電子学会(IEEE)で発表し、学生論文最優秀賞を受けました。

**大学サイエンスフェスタに
立命館大学が出席
～大学の先端研究を紹介～**



10月30日(金)～11月8日(日)にかけて東京・上野の国立科学博物館で大学の先端科学研究を子どもたちにもわかりやすく紹

介する企画展「大学サイエンスフェスタ」が開催されました。来場者が実験や工作も体験できるイベントで全国から10大学が参加。

立命館大学は“テクノロジーふしぎたんけん－立命館ワールドへ!”をコンセプトに体験ブースや京都・滋賀にかかわる研究を紹介。参加者に科学技術の楽しさや可能性を感じてもらえるフェスタとなりました。

2009年度立命館大学学園祭を開催

11月7日(土)、8日(日)びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、11月14日(土)、15日(日)衣笠キャンパスにて、2009年度立命館大学学園祭を開催しました。今年のテーマ「spaRkle」には、個々の学生がきらめき、相互にきらめかせる学びあいの様子、学生文化そのものをきらめきとして大学から社会へ向けた発信を行っていきけるように、という願いが込められています。

天候にも恵まれ、今年も学内、学外から多くの来場がありました。キャンパス内には学生サークルや有志団体の模擬店、フリーマーケットも数多く並び、訪れた人はキャンパスでの一日を楽しんでいました。



びわこ・くさつキャンパス (BKC)



衣笠キャンパス

立命館学園新聞OB会が文集『立命館学園新聞』と私の青春を刊行



立命館学園新聞OB会が、文集『立命館学園新聞』と私の青春を刊行しました。この文集は、立命館大学の学園復興期(1945年～1950年代)、学園振興期(1960年代)を末川博・立命館戦後初代総長とともに担った若者の回想録。

戦後創刊された学園新聞の長い歴史のなかで、編集室の度重なる移転や、1969年の「大学紛争」で部室が破壊され新聞部の諸資料が散逸し、まとまった記録が見当たらない現況で、今回の文集には貴重な歴史的証言が数多く収録されています。

10月8日(木)には、OB会のメンバー10名が広小路キャンパス跡や衣笠キャンパスを訪れ、青春を謳歌した大学時代を思い思いに振り返った。そして、大谷墓地に眠られる末川博先生の墓参をして先生に追慕の情を捧げられた。

新司法試験合格者祝賀会を開催

9月25日(金)、2009年度新司法試験合格祝賀会を開催しました。祝賀会では9月10日(木)に発表された第4回新司法試験の合



格者60名(合格者数全国10位)を祝し、川口清史総長からも激励の言葉が贈られた。

立命館グッズ 新商品を発売



立命館グッズの新商品が発売されています。ネクタイ、ピンバッジ、ブロックメモ、宇治茶(Rマーク入りデザイン缶)、タオルなどです。

立命館グッズは、インターネット、電話、FAXでもお求めいただけます。

皆様も是非ご利用下さい。



宇治茶・濃茶水晶飴
詰め合わせ

●インターネットでのご注文

次のアドレスにアクセスください。

<http://www.ritsumeikan-shop.com/>

●FAXでのご注文

次の事項をご記載のうえ、FAXでご注文ください。

必要事項：お名前、ご住所、電話番号、FAX番号、希望お支払い方法

商品情報：希望商品名(色・サイズ)、単価、個数

FAX：075-463-9045

●電話でのご注文

下記までご連絡ください。

(株)クレオテック リベルテ

TEL：075-463-9740

立命館学園が2020年にめざすべき方向性、「学園ビジョンR2020」の策定にむけて 校友のみなさまのご協力をお願いします

学園ビジョンとは

立命館学園は2020年にめざす学園像としての「学園ビジョンR2020」の策定を進めています。この学園ビジョンは2020年に向けて、立命館学園が教育、研究、学園創造に具体的に取り組む際の指針として活用するものとなります。

策定において大切なキーワードは「参加・参画」です。この間、学園の教職員を中心に検討をすすめ、学園ビジョン案としての1stドラフトをまとめました。

Creating a Future Beyond Borders
自分を超越る、未来をつくる。

1stドラフト「学園ビジョンR2020 ホームページ」

1stドラフトの詳細は、現在、立命館のホームページで公開しております。ぜひご覧ください。

立命館大学ホームページ→
R2020[学園ビジョンR2020]バナーをクリック
http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/gl/so-ki/vision_r2020/index.html

今後、この1stドラフトを一層充実させるために、学生・生徒・児童、教職員、卒業生、保護者のみなさまをはじめとして学園に関わる多くの方々との意見交換を行い、2010年に最終的な学園ビジョンとして策定する予定をしています。学園ビジョンの策定にむけて、校友のみなさまのご協力をお願いします。

学園ビジョン1stドラフトへのご意見をお寄せ下さい

学園ビジョン1stドラフトに対するご意見・ご提言はR2020ホームページにて承っております。頂いたご意見は、最終的な学園ビジョンの策定および、2011年以降に取り組む新たな中期計画の検討に活用させていただきます。

多くのみなさまからご意見・ご提言をお寄せいただきますよう、よろしく願いいたします。



日本学生支援機構(旧日本育英会)奨学金 返還中のみなさまへ ～お知らせとお願い～

● 返還は滞りなく行われていますか?

引き落とし口座の残高不足や住所変更による振込み用紙の不着などで、延滞となっておられる場合があります。今一度、ご確認をお願いします。延滞される卒業生の方が多くなると、在学生の採用数が削減され、後輩たちの学業継続に影響がおよぶ場合があります。

● 在学中・病気・失業などで返還が困難となられた場合

「返還期限猶予」の制度があります。ご自身でお早めにお手続きをお願いします。延滞されますと、延滞金が課されますのでご注意ください。

詳しくは以下をご参照ください。

HP http://www.jasso.go.jp/houmon_menu/henkan_index.html

TEL 日本学生支援機構奨学金返還相談センター：0570-03-7240



世界で認められた 「仲間と作り上げた成果」

～世界コーオペ教育学会での研究発表を通じて～

●●● たかつさちこ 高津佐知子 さん (社会学研究科 2 回生) いけもとしょうご 池本尚吾 さん (文学部 4 回生)

Shogo Ikemoto
Sachiko Takatsu



2009 年 6 月にカナダのバンクーバーで、16 回目となる世界コーオペ教育学会 (WACE: World Association for Cooperative Education) の世界大会が開催された。これはコーオペ教育 (産学連携による長期インターンシップ) や WIL (Work Integrated Learning) に関する国際的な教育学会で、大学生として初めて、立命館大学の学生 4 名のグループが研究発表を行った。今回は、この学会に参加したグループを代表して高津佐知子さん (社会学研究科 2 回生) と池本尚吾さん (文学部 4 回生) に話を伺った。



Q 世界コーオペ教育学会とはどのような学会なのですか。また、この学会に参加するにいたった経緯を教えてください。

高津: 世界コーオペ教育学会は、企業や組織との産学連携によるインターンシップをどのように位置づけしていけば学校の授業と連携していけるかについて考えていく学会です。私達が今回参加することになったきっかけは、授業の 1 つである「コーオペ演習」を受けていたことです。「コーオペ演習」とは、企業から与えられた課題に院生をリーダーとするグループで取り組んでいく授業で、私達のグループは「女性マネージャー育成における包括的提案」というテーマを研究してきました。



その成果が認められ、コーオペ演習の担当教員であった加藤敏明・共通教育推進機構教授から

本学会について教えていただき、参加の運びとなりました。また、発表に際し、廣瀬幸弘・共通教育推進機構教授には、発表原稿の英文内容や国際学会でのプレゼンテーション手法について多くのアドバイスをしていただきました。

Q 当日の会場の雰囲気と、実際に発表された時の感想を教えてください。

池本: 私は外国へ行くこと自体が初めてだった上に、このような学会で発表させてもらうということで、とても緊張していました。会場の雰囲気も今

までに感じたことのないようなものでした。今回は、発表や質疑応答も全て英語だったので最初はとても不安でしたが、発表前に全員で何度も質疑応答のシミュレーションをし、英語を話せるメンバーに発音をチェックしてもらいながら練習を繰り返しました。その甲斐もあって、当日の発表や質疑応答でも質問された事にスムーズに答えることが出来ました。

高津: これまでに国内の学会に参加したことはありましたが、学会での発表は初めてでした。会場では、日本とは雰囲気はかなり違うなと感じました。学会の最中にはフリードリンクや軽食が提供され、廊下ではオークションが開催されるなど賑やかです。それから、私達の発表を聞いた周囲の方、特にアジア地域の方々が驚いていたことが印象に残っています。アジアの中では先進国である日本でさえ、女性の管理職が少ないということが意外だったようです。

Q 世界コーオペ教育学会では学生賞を受賞されましたね。受賞した時の感想と学会での発表を通して感じた事を教えてください。

池本: 本学会では、これまで日本人の大学生が発表したことがなかったので、この「学生賞」はこの学会に参加し、学生自身が発表したことに対して与えられた賞だと思います。私たちにとっては、賞を頂いたことよりこの 1 年間、メンバーが一丸となって 1 つの研究に没頭し、その成果を発表できたことが嬉しかったです。

また、何度も繰り返される意見交換の中で自分の意見を積極的に言えるようになりましたし、今まで以上に様々なことにチャレンジする精神も身に付きました。この授業を通して関わった人たちに本当に感謝しています。

高津: 大学の授業で私達のグループは、他のグループに比べると意見交換の時間が多く、社員アンケートや他社へのインタビュー調査も積極的に行っていました。リーダーをしていた私は、メンバーみんなの意見を受け入れながら 1 つのものへと完成させていくことにも苦労しました。そういった状況の中でも、グループワークを通じて、色んな意見を聞き、みんなが理解・納得できるまで話し合うことで、より良いものができることを実感しました。今回の経験は本当に自分を大きく成長させてくれたと思います。



校友会・グループ インフォメーション

※(職)は職場電話番号

校友会・グループ	日 時	会 場	問い合わせ先
建立会(建設会大阪支部) 総会	1/16(土) 14:00	ヴィアーレ大阪	田中 玲光 (職)06(6160)2132
浜松会新年会	1/17(日) 18:20	ホテルコンコルド浜松	船越 弘光 (職)053(434)8114
北朋会(北海道教育関係者の会) 総会	1/30(土) 11:00	ホテルライフオート札幌	中村 素木 (職)011(381)8888
北海道校友会総会	1/30(土) 15:00	ホテルライフオート札幌	中川 均 (職)011(251)3373
姫路立命会総会	2/6(土) 15:00	まねき食品本社	尾上 誠一 (職)079(288)3811
愛知県校友会東三河支部総会	3/6(土) 未定	ウェステージ	鈴木 宣央 (職)0532(54)5221

校友消息 (判明分)

叙勲 2009 年秋

■旭日中綬章

山岡景一郎氏('53 経済)
京都府生活衛生同業組合協議会長

■瑞宝中綬章

町田 章氏('64 院文)
元奈良国立文化財研究所長

■瑞宝小綬章

伊藤重正氏('61 理工)
元県企業庁都市整備局長

西森徳良氏('62 法)
元林野庁管理部厚生課長

■瑞宝双光章

依田留也氏('61 法)
保護司

米田好一氏('63 法)
保護司

久保岩男氏('63 法)
元公立中学校長

谷川昭夫氏('65 法)
元奈良行政監察事務所長

危険業務従事者叙勲 2009 年秋

■瑞宝双光章

花登幹夫氏('56 法)
消防功労

福島美津雄氏('60 法)
警察功労

安光 進氏('60 法)
警察功労

森田知孝氏('61 法)
警察功労

河崎親義氏('61 経済)
警察功労

■瑞宝単光章

安藤正信氏('59 法)
警察功労

掛村銑三氏('59 法)
警察功労

福井 弘氏('59 経済)
警察功労

大江善之氏('61 法)
警察功労

褒章 2009 年秋

■黄綬褒章

長田正明氏('57 法)
司法書士

佐伯希彦氏('63 理工)
東邦電気産業(株)代表取締役

■藍綬褒章

三宅順一郎氏('45 専法)
元府納税貯蓄組合総連合会長

大西敏之氏('67 法)
桃林幼稚園理事長

就任

川下史朗氏('72 経済)
在大阪力ザフスタン共和国名誉領事

野崎秀則氏('82 理工)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役社長

訃報

佐藤 修氏('74 法)
(東京校友会幹事長)

10月18日ご逝去。60歳。

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただいております。

◆中山一幸氏('57 法) 発行

『宮川の流れとともに 中山一幸半生記』
アイブレーン * 1429 円 + 税

◆田中荘介氏('57 経済) 著

『川柳句集 木漏れ日』
新葉館出版 * 非売品

◆田中忠夫氏('62 法) 著

『はじめて歩く遍路道』
* 非売品

◆和田 猛氏('65 法) 著

『ビジネスの高みへ』
プリブレス・センター * 1200 円 + 税

◆一色 尚氏('65 法) 著

『学校再生～可能にしたものは～』
日本教育総合研究所 * 1800 + 税

◆田中富夫氏('67 文) 著

『落葉片片 会席小品集』
個人書店 * 非売品

◆可兒敦彦氏('69 文) 著

『夢かけた四季彩のまち』
大分合同新聞社 * 1715 円 + 税

◆日野雅之氏('69 文) 著

『松江の俳人 大谷繞石』
今井出版 * 1700 円 + 税

◆津止正敏氏('95 院社会) 他著

『ボランティアの臨床社会学』
クリエイツかもがわ * 2400 円 + 税



2009 年度各種国家試験合格者

司 法 試 験	新 60 名・旧 3 名
公 認 会 計 士 試 験	35 名 (12月3日現在判明分)
国 家 公 務 員 I 種 採 用 試 験	22 名
国 家 公 務 員 II 種 採 用 試 験	145 名
家 庭 裁 判 所 調 査 官 補 I 種 採 用 試 験	3 名
外 務 省 専 門 職 員 採 用 試 験	1 名
弁 理 士 試 験	15 名

卒業 50 周年記念行事のお知らせ

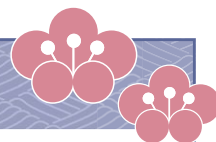
日 時: 2月19日(金) 13時30分～
会 場: 京都ホテルオークラ(会費無料)
対 象: 立命館大学、立命館大学大学院を 1960 年(昭和 35 年)
にご卒業された方(先着 200 名)

*校友会に現住所をご登録いただいている対象の方にご案内
をお送りします。詳細はそちらをご覧ください。

立命館大学入学式のご案内

日 時: 4月1日(木) 開場: 13時開場、開式 14 時～(予定)
会 場: 京セラドーム大阪(入場無料)

参観お申し込み方法: 電話、FAX、電子メールのいずれかにて、
入学式参観希望の旨をご明記の上、住所、氏名、卒年、学部を
校友会事務局にお知らせください(事務局連絡先は冊子の裏
表紙をご覧ください)。



「男の手料理」。現実にはひたすら必要に迫られて身に付けた我が料理、昨年より加速の一途であります。連れ合いの仕事が早出・遅出と勤務変更になり事態急変、しかも持ち帰り残業が追い討ちをかけ連れ合いの家事の時間は大幅に減ってしまった。

私の仕事は長引く不況で大幅に減少、私の時間は有り余っている。料理人が変わると、昆布や削り節、椎茸と巧く出汁が摂りなくなる。旨い出汁で仕上げた和食は逸品である。和食には料理酒が付き物である。ここだけがこだわりになっている。肉も魚も野菜も「旨味が決め手」料理酒も旨いお酒に変わると料理に使うだけではもったいない、そう思いませんか。

表紙を飾る滝村さんのように「レシピ」などと人様にお伝えすることは出来ませんが、美味しい、旨い、上手いと褒められてご満悦の日々である。のんきなフリーランス「左手に自由を! 右手に中身の入ったサイフ!」ほろ酔い気分で編集後記を書いている。(オ)

先日、以前所属していたニューヨーク校友会を訪問する機会を得ました。久しぶりの会の総会訪問を楽しみにして伺いましたが、現地新聞等に広報された事もあり20名程の参加がありました。その中には設立当初からのメンバーの方や懐かしいお顔ぶれ、また今回の広報でニューヨークにも校友組織がある事を知られての初参加の方々、本当に様々な業種の方が同じ「立命館」という輪の下に集われました。皆さん異口同音に仰ったのが校友という事で直ぐに旧友の様に親しくなることが出来る不思議さです。新しく来られた方の中には一人で慣れない地の生活で不安な日々を送っておられた処、非常に懐かしく温かい一時を過ごせたという事でした。母校が国際化に向けて更に発展している今、海外校友ネットワークの重要性も益々深まっていくことでしょう。これからの校友活動が重きを増していく予感を感じながら、一校友としても編集委員としても母校の発展を願っています。

(乾)

確か、前回の編集後記に、北京五輪会場プレスツアーの取材記者陣のうち5社が後輩であったという偶然を書いた。今回は、世界に注目される大舞台を上海に移して2010年春開催される上海万博会場取材。ひきつづき、韓国の朝鮮王陵世界遺産の取材、やはり、ここでも後輩がいた。マスコミで活躍している立命館出身者に、取材先で一緒になるとなにかと姉さん風をふかせられる(笑)。ビールも年上というだけで、注いでもらえるし、ほろ酔い気分で年齢を白状すれば、「若いですねえ!」と驚かれ(50代のわりには、格好が若作り…)、異国気分も手伝って、なにやら尊敬のまなざしで見られる(気がするだけ)? これが、また嬉しい。大阪では2009水都大阪イベントが夏から秋にかけて繰り広げられた。このイベントを大いに盛り上げたのが現代美術家・ヤノベケンジ氏による巨大な龍のアート船「ラッキードラゴン」。炎を噴く龍が大川に出現、イベントの象徴となった作家インタビューで京都造形大学の研究室に何度も何度も連絡、取材も終わり、ひょんなことから、担当者が、後輩と分かったときの、悔しさよ! なんでもっと早くゆうてくれへんのお。

(高橋英子)

10月のある日の午後、湖北の夕景を眺めたいと思いつき、独りで車を駆って尾上温泉へ向かいました。刻々とうつろう陽の色や水面の色、山影の濃淡も、神々しさここに極まりと思える美しさで、都会の夕暮れ時に覚える侘しさはみじんもなく、どんな明日でも受け入れられそうな澄んだ心持ちになりました。

さて、このような秋の日に私こと、校友会事務局入職以来13年間携わってまいりました本誌の編集執筆業務にいったんピリオドを打ちました。立命館学園と校友会が共に大いに発展した時期の広報活動は、とてもやりがいがありました。読者の皆様、誌面にご登場・ご寄稿下さいました皆様、歴代の広報委員様や、各校友団体・学内各課で労をお執りいただいた皆様、上司・同僚・協力業者の皆様など、支えて下さった方々に厚く御礼を申し上げます。

いまは、残照のやさしい光の中で翌朝を期するような心境にあり、これまでとは違うどういう形で校友会の元気な歩みに寄り添わせていただけるかと楽しみです。頼もしい後任に託したこの『りつめい』共々、引き続きよろしく願いいたします。

(寺田直子)